

——これは、わたしの『初恋』のお話。

コン
コン
コン

……沙也果。
入ってもいい？

あ、お母さん？
うん、勉強も一段落した
とこ嬉しいよー

ノックの後、扉越しに聞こえたのは少し強張った声。
大方、用件は予想がついた。

そう……今日の昼間のことで。



良彦さんってば……
毎度、容赦なさ過ぎです♪

お前さん、お前さん。

生なのに、こんなにたくさん
赤ちゃん出来ちゃったら
どうするんですか♪

ご、ゴメン……
でも、元はといえば
沙也果ちゃんが――

わたしが、良彦さんと――

ママがね、帰ってきちゃったみたい――

ママがね、帰ってきちゃったみたい――

その後、ママは何も言わずに家を出て——
つひさつき、改めて帰ってきたみたい。

まあそりゃそっか。
実の娘が、かつての同級生とエッチしてたなんて
ショックに決まっているもんね……」



……沙也果、話があるの。
あなたと、良彦クンの

お帰りーママ。
帰ってきてたんなら言っ
てくれば良かったのに

ガキッ



ああ。良彦さんとセックスしたことでしょう？w

ママの顔が僅かでも歪む。

っ……

ママ、昼間一回帰ってきてたよね？

見ちゃったんだよね。わたしと良彦さんの、ラブラブ生エッチ……♪



あーあ、煽っちゃった。
ママ、相当おかんむり
だろうなー……♪

もしかしたらピンタとか飛んでくるかも。
無意識に身体を強張らせた……だっけ。

きつと期待してたななと思っ。アイン察らなぬわなぞ。
だっぞ知ってる——ママが良彦ひなな着かきやうのしんじ。



……ああいうことは、
次からは……ママに
バレないようにしてね

……え？

ママの口から出てきた言葉は、
想像だにできなかったものだった――。



来年の春には大学生。
もう子供じゃないもんね

……ママは知ってるから。
沙也果は賢い子だって

……

沙也果が望んでいることは
最大限尊重したい。それが
親としての正直な気持ち

ママも、人のこと
とやかく言えるような
人生歩んでないし……

でも、ああいうこと
するなら……ちゃんと
したお付き合いにしてね。
それだけ

どこか自嘲するような微笑を浮かべて……
ママは踵を返した。



……怒らないの？
だって……
良彦さんとだよ？

娘が自分と同年の男と
あんなことしてると……
イヤじゃないの

……恋愛に
歳は関係ないでしょ。
それに良彦クンのことは
信頼してるから

じゃあママ、明日仕事
早いからもう寝るね。
沙也果も夜更かしは
程々にね







……最初はただの興味本位だった。
いい大人なのにワッな反応をする良彦さんが
面白くて、ついからかいたくなって。

妙な静けさの中、天井を仰ぐ。

……はあ。
調子狂っちゃうなあー……



良彦さんの目はわたしを凝視して、
その背後のママを見て……その気がして。

……やっってる最中、
あんな気持ち良そうなの
顔してる癖に

それで、肉体関係を持った後のママは……思わなかったよ
して……良彦の顔を見て……なにかドキドキして。

あーあ。いつそのこと、
勘当とかしてくれた方が気分は
すっきりしたのになー

……ツクツクと胸が痛む。
同時に、ママが言っていた言葉が頭に浮かんできた。

……恋愛に歳は
関係ない、かあ





どうなんだろうね。
わたし——良彦さんのこと。
好きなのかな——


ごめんね、急に
来てもらったりして

いや構わないよ。
今の時期はそこまで仕事も
立て込んでないから

テーブルに置かれたホットコーヒーが
香ばしい匂いを漂わせている。

旅行から帰ってきた数日後、
俺は穂乃果さんの家に呼び出された。





午前休取ったの。
どうしても良彦クンと
話がしたくて

でもどうしたの？
今日は仕事じゃ

話って何だろう。もしかして
旅行先で言いかけてたあの件……？

そんな浮かれた期待は、次の穂乃果さんの一言でかき消された。



単刀直入に聞くわね

良彦くん……沙也果と
付き合ってるの？

えっ……えっ!!?

実はね、……見ちゃったんだ。
沙也果の部屋で二人が……
してるところ

——全身に氷水をぶちまけられたような、そんな心地がした。

ば、バレた……
沙也果ちゃんとの関係が。
それも穂乃果さんに——

いつかはこんな日が来るかもしれないわ
——そうは思っていた。

だけど俺はずっと目を背け続けて、
つかの間の快感に流されずると
イケない関係が続けてしまっていたのだ。

たった数秒の沈黙が永遠のように感じる。

頭の中が真っ白になる。
意中の女性の娘と関係を持つなんて……最低の行為。

いやそもそも沙也果ちゃんは未成年。
警察に突っ込まれてもなんらおかしくはない。





回の中がカラカラに乾き……
弁解の言葉を発することすらできなから。

だげど、そんな俺を見て穂乃果さんは
ふっと優しく微笑んで。

……危なっかしい娘だから。
ちゃんと見ててやってね

っ、え……



でも……相手が
良彦クンで良かった。
安心して沙也果を
任せられるもの

あはは、大げさ。
……確かに、現場を
見ちゃった時は
びっくりしたけど

いや、その……ッ、
と、とにかくゴメンっ！
人間失格だ……！！



ううんいいの。
言い辛いのは理解できるし

……沙也果ちゃんと付き合ってる訳ではなから、とは言えなかった。
この期に及んで保身に走ってしまひ自分で自己嫌悪を覚える。

……本当にごめん。
今まで黙ってて

……沙也果ね？
きっと寂しかったんじゃないかと思うんだ

私は……ずっと独りで
沙也果を育ててきた

え……？

それは私の意地でもあったの。
この子は何としてでも幸せに育て
ほしい。辛い思いはさせたくないって
……我武者羅に働いて





って……あはは、ゴメンね！
こんな暗い話、したかった
わけじゃないの！

……穂乃果さん

思えば授業参観も、運動会も。
ろくに行つてあげられてなかった
な……

でもそうすればするほど、
沙也果に構ってあげられる
時間は減ってさ

だから、あの子の
幸せに良彦くんが必要なら。
親としては応援してあげる
他ないかなって

冷めたコーヒーを飲み干すと——
穂乃果さんはおもむろに立ち上がった。

うん、そろそろ行かなきゃ。
良彦くん、時間取ってくれて
ありがとね

あ……時間？





外まで見送るよ。
といっても、家隣だけどね。
ふふっ♪

あ、あはは……そうだね

そう言っで笑う穂乃果さん。
その顔は心なしか、悲しげに見えた！



……結局、仕事は全然捗らなかった。
頭の中を穂乃果さん……そして
沙也果ちゃんのことかグルグルと回る。

その日の午後——
俺は夕飯の買い出しで駅前をぶらぶらしてんだ。

はあ……いい加減、
はつきりさせないとなあ



沙也果ちゃんには俺の気持ち全部の100%を伝えたい。
少なくとも嫌われないように……です。

沙也果ちゃんも、誠実に付き合おうと始める……しかならななと思う。

……穂乃果さんの
優しさに報いるには



なんて、思考を巡らせていた時だった。

あーくすっ♪
冴えない大人がいるなーって
思ったら、良彦さんじゃ
ないですか♪

そうだよな……きっとそうだ。
そもそも、好きでもない相手と
エッチなんてしないよな普通——



どうしてもなにも、
学校帰りですけど

なんですか、わたしに
見られたらマズいものでも
買おうとしてたんですか？w

って沙也果ちゃん！
ど、どうして……！

いいや……
そういう訳じゃないけど



ん！……丁度いっか。
ほら良彦さん、こっち
来てください♪

うわっ……さ、沙也果ちゃん？
一体どこに連れてくんだ……？

沙也果ちゃんは……知っているのだろうか、
俺たちの関係が穂乃果さんにバレたことを。



ふふっ——ほんっと
わかりやすいですね
良彦さん♪

きっと待ってますよ、
良彦さんが期待しちゃってる
展開が……♪

アテはないですけどー……
強いて言うなら人気の無い
トコロ、ですかね？

人気の無い……って、
ま、まさか……



強引に手を引かれてやってきたのは薄暗い路地裏。

大通りに接してあるものの、大抵の人はこちらを目に留めることなく通り過ぎていく。

さ、沙也果ちゃん。
一体何を……

えー、本気で言ってます？W
何をもって……こういうコトに
決まってるじゃないですか！

……ほら、
見て良いですよ、
パンツッ

パ
サ
ツ

ちよ……っ、な、何を
やってるんだ沙也果ちゃんっ

あはは、良彦さんってば
キヨドリすぎッ

今まで散々エッチなこと
してきたんですから。
パンツくらい見慣れてる
でしょ？w





ワスワス

あ……それとも。良彦さんは
もっとバレるかバレないかみたいなの、
羞恥プレイをご希望ですか？w

大丈夫ですよ。スカートに遮られて、
後ろを通る人からは見えませんから♪

そういうことじゃなくって
……人！人に見られるから！

そんな変態な
良彦さんのために……
一肌脱ぎましょう。
はい♪

っ、ちょっとホントに……
マズいって……!!

パンツが下ろさねー沙也果ちゃん、
綺麗な割れ目が頭やよな。

お好きなように思いつつも男の性。
しっとりとした湿り気を帯びた秘部を凝視してしまふ。



あは……見てる見てる♪
良彦さんってホント可愛い
ですよね♪

回では正論染みたこと
言っただけでも、エッチな身体を
前にすると黙り込んじゃう♪

ワスワス

いや、男の人って
皆こうなんですかね？
大変ですねーおちんちん
付いてるって♪



で……どうします？
したいですよね、わたしと
エッチなコト

ちら……ッ

っいや……
だけど……!!

既にスポンジの下の愚息は、ギンギンに張り詰めていた。

だけど穂乃果さんと話した手前、今までみたいに
沙也果ちゃんのペースに飲まれるわけには……!!

はあ……良彦さん。
またなんか余計なこと
考えてます？

どうせわたしには
抗えないんですから

諦めてエッチ。
しちゃいましょうよ

はあ

え……！

不意に沙也果ちゃんが、
俺の首の後ろに腕を回したかと思うと――。

んむっっ……!!?

んっっれる、
ちゅっっっ……っ

ギュッ

たっ……っ

唇を無理矢理こじ開けて、体温から舌が入りこんできました。

遅れて鼻から抜ける沙也果ちゃんの甘い香り。
ああ、キッされてる——俺はぼやけた頭で、
ようやく事態を把握する。

ふーっ……そう、舌絡めてえ……れる、ちゆる……♪

先ほどの決意が舐め溶かされて行く……そんな感じがする。気が付けば俺は、沙也果ちゃんに唇をのっけ舌を絡めていた。



甘い、甘い唾液の味。ざらつく舌の感触。全てが気持ち良くて、煩雑とした思考を霧散させる。



やっぱり
期待してたんですね♪
むっつりスケベ♪

あつ、沙也果ちゃん……!!

っ、はあ……
ギンギンじゃないですか。
ココ……♪

さわ
ooo



れる、ちゅう……
ねえ、教えてください？

何で興奮したんですかあ？
ちゅう……キスで？ おまんこで？

それともこの先……
起こることを期待して？
くすくす……

ちゅう……

ああ、ダメだ。
いつもの流れだ――

んじゅ、
ちゅううう……じゅる♪
ねえ、もつとお……♪

じゅるッ
じゅるッ

むっ、
むっ、

沙也果ちゃんの誘惑に抗えない。

ズボン越した股間を愛撫する。
彼女の小さな手で自分のおっぱいへ。

あつ、沙也果ちゃん……!

ちゆ……大丈夫ですよ。
誰も見ていません♪

その間にかズボンを降ろされ、
ペニスを露出させられる。

カチャツ
カチャツ

サッ
サッ

ジュー……

外気に晒され、ひんやりとした感覚。
それを打ち消すように沙也果ちゃんの
温かい手が肉棒を添えられた。

良彦さん……れる、ちゅう。
一発目。どうやって射精
したいですか？

このまま手で……ちゅぶ。
カリ首を、優しく触られ
ながら……？

ちゅぶ……

ちゅぶ……

ちゅぶ……

ちゅぶ……

っあ、あつ！
そこ、敏感だから……！

ふふ、それともお……
別の場所。例えば……
お回とか？



ほら、わたしの舌使いを
感じながら想像して
ください♪

唾液でヌルヌルのこの舌があ、
おちんちんを這い回るのを……
れる、れろお、ちゅむ……♪

沙世果ちゃんのキスがよすぎて、
ねちねち動きたり変な匂いする。
へ。

舌が応でも想像してしまっ——
沙世果ちゃんの舌で、チンポを舐められる感覚を。





っあ、はあっ……
おちんちん、ピクって
跳ねた♪

相変わらず
わかりやすいです
よね……♪

わたし好きですよ。
良彦さんのそういうところ♪

っ、はっっ、
はっっ……!!

それじゃあ、お望み通りい……
ふふ♪ 最初はお口で搾り取って
あげますね♪

♡♡♡♡

♡♡♡♡

♡♡♡♡

♡♡♡♡

っしょ……にひ♪
おちんちん、我慢汁で
ヌルっヌル……♪

はあっ、あっ。
吐息、当たって
気持ち良い……！

ナニ……ッ

く……ッ

ふふ、もう射精のことしか
考えられないって顔♪

良彦さんはそういう顔
しているのが一番合っ
ますよ♪



それじゃあ……
おちんちんにキス。
しちゃいますね……
ちゅ、れろ……♪



裏筋を、ちゅりりと舐めあげられる。
敏感になったペニスは、たっとなそれだけでビクビクと打ち震えた。

っあ、ちゆう……ふふ、
くっさ……良彦さん、
おちんちんちゃんと
洗ってます……？

あっ、はあっ……
ゴメン、洗ってはいるけど
汗かいたから……！

くす、こーんな
オスクさいおちんちん。
JKに舐めさせるなんて
サイテー……♪



まー嫌い
じゃないですけど、
この匂い……はむ、
んじゅう……♪

あぁっ、沙也果ちゃんの
口の中あったかい……!!

弾力のある唇がカリ首を啜え込む。
口内では器用に動く舌先が、鈴回をちるちるとくすくすするように刺激してきた。

んじゅん……んじゅん
ずじゅんずじゅん……ん

んじゅん

んじゅん……ん

んじゅん……ん

んじゅん……ん

くうっ、吸い付き
激しいっ……！

こんな可愛げ顔をしたリクが頬を上品に奪って
俺の愚息に吸い付きださる……。――

改めて……この光景が本来あり得ない
ものだと思うと興奮が止まらなう。

ふっ、んじゅっ……ふふ♪
んあ……ちよつぱり、精液の
味がします……♪

もうイキそうなんだ、
この雑魚チンポ♪少しは
男らしいところ見せて
くださいよ♪





くすっ♪良彦さんの
弱点がわかりやすすぎる
だけですっ♪

こういのが
いいんですね？

っ、はあっ……だって、
沙也果ちゃんが上手
すぎるから……！！

龟头を引つ張るように、
激しくバキューム……ぐぼっ♪
ぐぼっ♪じゅぼっ♪



強烈な刺激にガクガクと腰が震え始める。
熱い感覚が陰囊から迫り上がって、尿道を
伝っているのがぼっぼりとおかた。

くっ、あっ、沙世果ちゃんっ！
それヤバいっ……！！



ふーっ、んじゅっ、
らひで、くらほじ——ちゅっ、
じゅっ、い、じゅっ、い、

んじゅっ、い、い、
じゅっ、い、ちゅっ、い、
じゅっ、い、い、

沙也果ちゃんっ、出るっ、
出るからっ……!!

クワッ
クワッ
クワッ

シッ
シッ
シッ

ズン
ズン
ズン

ズン
ズン
ズン



んちうちうっ!
つぶーっ……んじゅ……
んじゅ……

あぁ、出してしまったっ……
沙也果ちゃんのお口マンコに……!

いっっ、イクっ、
出るちうっ……!!

んじゅ
イク
マンコ
んじゅ
イク
マンコ
んじゅ
イク
マンコ

っあ、きゃあっ!!? ちよ……
顔にかけていいままでは言っ
てませんケド。

っ、はあっ、はあっ……
ご、ゴメンっ……
不可抗力で……!

全く……
雑魚チンポのくせして、
どれだけ精液溜め込んで
るんですか





どうせまだ
出したりないんですよね？
どうですか、このまま本番
……イっちゃいます？w

それに、まだ全然
萎える気配ないし……
ふふ♪

っ、はあっ、本番……

口……

……

……

……

—性欲に支配された頭で抗える訳もなく。



俺は沙也果ちゃんに誘われるがまま、
彼女の腰を後ろから抱き寄せた……。



うっ、沙也果ちゃんが誘ってきたから……!!

ちゃんと正直に言ってくださいよお。わたしを犯したくて我慢できなくなっちゃったっ♪

あー、そうやってまたわたしのせいにするー♪

やーん♪こんな路地裏で、良彦さんに犯されちゃうっっ♪

んんん…

んんん…



——壁に手を付き、お尻を突き出した紗也果ちゃん。

肉付きの尻は桃尻に手を添えて、俺は勃起した。尻をぐりぐりと押し付ける。

あんっ♪もうがっつきすぎ♪
少しは雰囲気作りとか、
そういうのなんですかあ？

例えば、こうやってえ……
んっ♪おっぱい、見える
ようにするとか……♪

クスクス

くすくす……

くすくす……



えーああんっ♪

っ、沙也果ちゃんっ……!!

沙也果ちゃんがブラブラをたくして上げた直後、ぷるんと白い乳房がまらび出る。瞬間、俺の中で頼りなく張り詰めていた一本の理性がブツンと切れた。



良彦さん、遠慮
なさすぎ……っ、はあっ、
おちんちん、熱……っ

——っ、はーっ、あっ……
も、いきなり奥まで
突っ込むとか……っ

くっ、ああっ……
沙也果ちゃんのナカ、
うねうね動いてっ

いやらしくチンポに
絡みついでくる……
ねえ、動くよっ……!

ハッ……

ハッ……

ハッ……

ハッ……

ハッ……



あ、くうっ……
沙也果ちゃんっ
……おっぱいも、
揉ませてっ……!!

そんな激しくっ、
お尻に腰、打ち付けてっ……
あっ、奥、引っ掻いてっ!

っあ、くう、んうっ!
はあっ、もう、人に見られる
こと……あれだけ気にして
っ、たのに……!

チキチキ

チキチキ

チキチキ

チキチキ



腰、止まんないっ……!

ふあっ、ッ、
んんううっ……あっ♪
良彦、さんっ……♪

そして、沙世果ちゃんの甘いなるら
嬌声が腰の動きを加速させてる。

もはや通りから聞こえる喧騒も耳に
入らないくらいに俺は行為に没頭していた。

チンチン

IP/IP/IP



出し過ぎです……
二回なのに、こんな、にっ
あああっっ

っあ、——んちがうわうわっ
っあ、熱いの、一番奥に、ッッ

あああっ、い、
イクううっ……!!



——っ、ふーっ、ふーっ……
ぜ、全部……出た……!

んっ……はあ、はあ、あ……♪
ようやく収まり、ましたあ……?♪

くす……もう、
太ももまで溢れた精液、
伝ってきてる……♪

どうしてくれるんですかコレ♪
絶対帰ってる途中に、おまんこから
漏れだしてきますよ……♪

グロ……ン
グロ……ン

はあ……
はあ……
はあ……

——路地裏での出来事の後。

ぷっW さっき中出し
キメた大人の言うことじゃ
ないですよソレ♪

う……そ、それは
そうなんだけど……

せめて送ってくよ。
罪滅ぼしになるのか
わからないけど……





沙也果ちゃんと並んで二人、帰路につく。

一度射精して思考はすっきりしてれたのもあるのだからな。
その言葉は、自然と口をのびて出た。

……なあ沙也果ちゃん。
俺たち……ちゃんと
付き合おう



えー？

俺の提案に、沙也果ちゃんは少しの間だけ目をまん丸だして。

くすっ……
どうしたんですか急に。
あー、もしかして……独占欲、湧いちゃいました？w

確かにわたし、学校では結構人気なんですよ？
今でもよく男子から告白されたりしますし。



……ママから？

うん。……穂乃果さんは、
もう俺たちの関係を知ってるって

そんな、
男の人よりどりみどりな
わたしが良彦さんを――

……頼まれたんだ。
穂乃果さんに



——わたし良彦さんのこと
何とも思ってませんからね

……そーですか。
バレてたんだ

母親として、沙也果の
ことをよろしくって。
だから俺は——

でも穂乃果さんは……
決して俺たちのことを
否定しなかった



あは、ごめんなさい！
やっぱり勘違いさせ
ちゃいました？

俺の言葉を遮るように——沙也果ちゃんに言った。
その顔は心なしか、少しいつもの余裕がなびやかな……
そんな気がした。

え……

今ドキの女の子って
こんな感じですよ？

別にエッチさせたからって、
その人のコト好きとは限り
ませんし

あ——良彦さん。
確か買い物途中じゃ
ありませんでした？

つ、沙也果ちゃん！
俺は——





有無を言わずにとらった感じで
沙也果ちゃんは走り去っていった。

見送りはいいですよ。
わたし、先に帰って
おくんで。じゃ♪

あ、ちよっ……!!

……沙也果ちゃん


遠くなんてろくその背中を見て、
どうしてだろう——漠然とした寂寥感を覚えた。

そう……まるで沙也果ちゃんがどこか
俺の知らない場所へ行ってしまっような。
そんな、根拠のない不安——。



いや、会えなかったと言った方が正しいかもしれない。
何度が電話しようかとも考えたが、発信ボタンを押す
直前に不思議と指が重くなって。

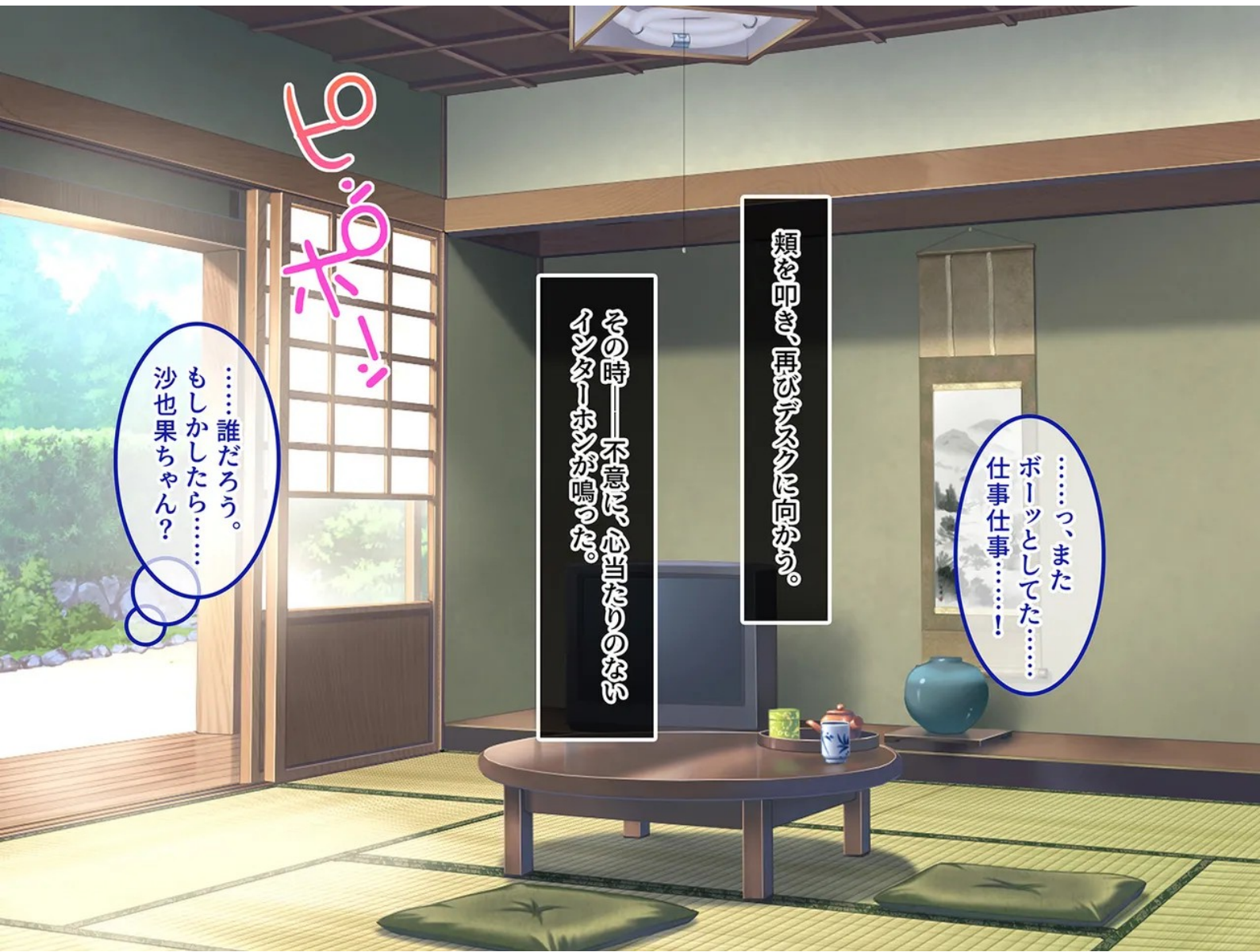
それから数日……沙也果ちゃんと会ってこいとはなわつた。



——わたし良彦さんのこと
何とも思ってませんからね

あの時、沙也果ちゃんに言われた言葉が脳内でループする。

……何だかもうこの感情。
ずっと昔に味わったことがあるような……既視感。



ポポッ!!

……誰だろう。
もしかしたら……
沙也果ちゃん？

その時——不意に、心当たりのない
インターホンが鳴った。

頬を叩き、再びデスクに向かう。

……っ、また
ボーツとしてた……
仕事仕事……!!

がちゃ

こんにちは。
えへへ、来ちゃいました

そんな淡々期待は見事なものでした。
だっど、そんなことより……

え……沙也果ちゃん。
どうしたの、その髪……



あー、これですか？
んー、イメチェンのな？

大した理由はないですよ。
……可愛いです？

ふふ、よかった。
上がって良いですか？
立ち話もなんですし――

う、うん……
その髪型も、すっごく
似合ってる……

あは。自分でも
気に入ってたん
ですけどね

ふと思いついて。
一度試しに切って
みようかなって

うん、沙也果ちゃんなら
どんなヘアスタイルでも
合うと思うよ

いやあ驚いたよ。
沙也果ちゃんと言えば、
あのロングヘアの
イメージだったから





……この前は
すみませんでした

ほら。良彦さんが……
一念発起、コクってくれた時w

え……？
この前って……

げほっ、ごほっ!!
こ、コク……!!



ぶつW 良彦さん顔真っ赤〜♪
照れてるんですか? W

ふふ……
あの時は、突然でしたし。
ちよつと混乱しちゃって

いや……うん。
間違いではない
けど……!

う、うん……俺も、
その……悪かったよ。
もう少しクッションを
挟むべきだった



——あれから
考えてたんです。
自分の気持ち

それで、結論が出ました。
良彦さんのこと……好きです

っ……沙也果ちゃ

好き、ですけど——
ラブの方はわかりません



さあどちらでしょう
んー、言葉にするの。
難しいんですけど……

近いのは……お父さん？
そんな感じかもですw

お、お父さん……はは。
まあ年齢的にはそうかも……

え……
ら、ライクの方、
ってこと……？

まあ普通、お父さんとセックスしちゃダメだけど……w

さ、沙也果ちゃん……？

いつもの調子で軽回を叩きながら——
沙也果ちゃんはおもむるに寄り添ってきた。

ブラウス越しに触れる柔肌の温かさ。
シャンブーの、甘く爽やかな香りが鼻孔をくすぐる。





だから……良彦さん。
エッチ、してくれませんか？

……今日は、それを
確かめに来たんです

っ……そういうことなら、
協力……するけど

ふふ、ありがとうございます♪
……もし、この気持ちが恋じゃ
なかったら



きっと——これが
最後のセックスですよ？



んもうっ……!

んー……
ちゅう、れる……♪

サッ……

ギョッ

俺の唇を、とんとんと沙世果ちゃんの舌先がノックする。

どうぞと開けた隙間に、にゅると唾液で濡れた舌が入りこみ……回内を優しく舐めまわす。

れろ、んちゅ……
ほら、良彦さんも
……んう♪

っんん……!

促され、俺は沙也果ちゃんの舌を絡め取り、啜る。

むんっ

たっ……

たっ……

顔に触れる吐息、回内に広がる……
沙也果ちゃんの唾液の味。
その全てが愛おしく、幸せに感じた。



っ、はあ、はあ……
仕方ないじゃないか……

れる、ちゅう……ん……
ふふ♪ 早くないですか？
勃起するの……♪

あは、そうでしたね♪
良彦さんは変態ですから
……ちゅう♪

JKにペロキスされて、
あつという間に交尾の準備
整えちゃうんですよね……
ほら、ズボン脱がしますよ？

せわ……
せわ……
せわ……

せわ……
せわ……

ん……
ん……
ん……

っあ、ふふ……ヤバW
もうバツキバキじゃない
ですか……W

う……さ、沙也果ちゃん。
あまり触ったら……

カチャ
カチャ

えい、暴発しちゃいます？W
それも面白いんですけどお……♪

まだガ・マン♪
色々考えてきたんです、
良彦さんが喜びそうな
こと……♪



どうです?w
良彦さんの大好きな
おっぱいですよ♪

パサッ

くさくさ

うあ……間近で見ると、
やっぱりデカイ……!!

大きな乳房に包まれた、沙世果ちゃんのたわわなおっぱい。ふわりと甘い香りがして、じんじん……。

ふふ……
いいんですか？
ブラ越しでw

ですよねっ♪
ちよつと待ってくださいね、
ブラ外しますから

ごくっ……み、見たい。
沙也果ちゃんの生おっぱい……!!

特等席で、
おっぱいご開帳の瞬間。
眺めてくださいね
……んっ♪



何度も見てるくせして
……くすり、良彦さんってば
興奮しすぎ♪

ぷるん、ぷるんっ♪
ほらほら、上半身揺らして
おっぱい誘惑……っ♪

ぷるんっ……っ

はあ、はあっ……
そんなことされたら、我慢
できなくなるっ……っ!





もうっ、がっつき
すぎですよ……っ、あ、
そんな雑に、揉みしだい
てっ……!!

んあっ!! あっ、ちよ、
いきなり乳首、吸って……♪

はむっ、んう、
ちゅううう……!!

セッ……

ギョッ

じゅわん、
じゅわんわんわん……！

んんっ……！

ズグズグ

すげえっ

ズグズグ
ズグズグ

じゅわん
じゅわんわんわん

——乳首を強く吸り立てると、華奢な身体が可愛らしく跳ねた。
沙也果ちゃんのおかげで漏れ出る雌声がより興奮をかき立てる……。





はぁっ、っ、もう……
行儀の悪い赤ちゃん……♪

よしよし、よしよし……
上手におっぱいちゅうちゅうちゅうまで、
えらいえらいでちゅねっ……♪

はぁっ、はぁっ、
はぁっ……



俺の頭を撫でながら、赤ちゃん言葉で
甘やかしてくる沙也果ちゃん。

よちよち、おっぱい
じょーず、じょーず……♪

大の大人が、二回りも年齢の違う女の子を甘えてやる……。
その倒錯感、背徳感が心地よく……俺は無心でどんどん張った
乳首をしゃぶりつく。

ふふ……

たーん……

たーん……
たーん……

たーん……

たーん……

っ、ふふ……はい。
おっぱいは一旦
お預けです……♪

……良彦さんのせいですよ？
あんないやらしい吸い方する
から……♪

っあ……はあっ、
そんな……！

んんんんん……

っあ、

その言いつつ沙世果ちゃんはその場で腰を降ろして……



我慢出来なくなっちゃった。
ねえ……今度はこつちを
舐めて……？

左右に開脚し……染みの浮いた
パンツを見せつけてきた。

くすっ

くたっ……

くたっ……

っ、ごく……パンツ。
濡れて、ぴったりと肌に
吸い付いて……！

筋が浮いてる。
おまんこの形が
くっきりだ……





くす♪JK生パンツも
貴重ですけどー……ほら♪

良彦さんに見せたい
のはごつち♪発情した、
生おまんこ……♪

パサッ

トロ……ッ

はあ、はあ……確かに。
エッチな汁でびしょ濡れだ……



ピンク色の陰唇も、そしてそのトロ……
ピクピクお尻の穴も丸見えた。

——愛液でいやらしく光る沙世果ちゃんの割れ目。

あ、はあ……良彦さんの、
獣のような視線……♪

すっごくゾクゾクします♪
ねえ、見てください……?♪



くばあ……♪ おまんこ、早く舐められたくて。ヒクヒクしてるのわかります……？

くす、良彦さん……♪ JKの濡れ濡れおまんこ。召し上がれ……♪

それに、くらっとくるくらいの濃厚な雌臭……♡♡♡♡♡

え、エロ過ぎ……中の様子までぐっぐり見えるよ……!!

♡♡♡♡♡

はぁ……♡

♡♡♡♡♡

おにゅ♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡



ふあっ、あっ♪
はーっ、良彦さんの舌、
おまんこに……ふあっ

んじゅっ、れろれろ、
じゅるる……！

こんな煽情的な誘惑をされて、我慢できる訳なかった。

滴る愛液を啜るように下から舐め上げる。
そのまま鼻を蜜壺に埋めるようにして、
犬さながら舐めしやる——！

れるれるれる、ずじゅっ、
れじゅるるっ！

くくっ、あっ、ああっ♪
そう、舌、深くまで入れてっ……♪

セクッ

はぁっ

じゅるッ

じゅるッ

じゅるッ



奥をほじる、みたいにしてっ
……あぁっ♪ イイ、気持ち良い、
ですよっ……あんっ♪

舐めれば舐めるほど愛液が染み出てキリがなげ。

顔をスス汁でびしょ濡れにしながら、俺は
欲に任せて沙也果ちゃんの肉穴を食った。





あは、良彦さんの
クセに生意気ですよ

はあっ……
だけど、やっぱりわたし。
良彦さんを虐める方が
性に合ってるかも

え……？

っ……俺だって、伊達に
沙也果ちゃんとエッチして
きてないから



くすくす

仕返し♪
えーいっ♪

うわあっ!?

突然、沙也果ちゃんが肩を突き飛ばしてきた。
そしてバランスを崩し、仰向けに倒れた俺の顔面だ……。

ゴキッ



ちよつと舐めただけでも
イっちゃいそう……れろお♪

んろっ

はぁ

ふふ、こんなにおっきくして……
限界ギリギリじゃないですかw

ふうっ、んんんっ……!

視界がオマンコで覆われて何も見えないが……
からうじて、亀頭を舐め上げられたのはわかった。



れる、れるれる……
確かに、良彦さんも上手く
なりましたけどお……♪

ふっ、ふっ、
んむう……！

わかってるんですよ？
どこをどう攻めれば、一番
おちんちんが喜ぶのか……
れるお、んちゅっ♪

わたしだって、たらくさん
良彦さんのおちんちん。
虐めてきましたから♪

たらく……♪

たらく……♪

たらく……♪



敏感なカリ下を重点的に舌先で攻められ、沙也果ちゃんの尻の下で悶える俺。

このまま為すがままとばかりのも何だか悔しくて、再び淫裂をへるへると舐め始めた。

ふーっ、んんっ……っあゝもう、わたしのターンだって言ってるのに♪

そんな抵抗、んうっ♪出来ないくらいに、気持ち良くしちゃいますからっ……っ♪

おにっ

ンロッ

んんんんん

んんんんん

んんんんん

はぶ、んじゅう……
れる、じゆる……ふふふ
亀頭、ばんっばん……

良彦さんの弱点♪
いっっぱい攻めてあげます
からあ……れるう、んじゅ
うう……♪

沙也果ちゃん、フェラ
上手すぎるっ……金玉が
持ち上がってくる……!!

くうっ……カリ首と亀頭、
同時に刺激されて……!!

ちゅっ……

ちゅっ……





射精の気配を察したのか、ストロークが加速する。

興奮でビリつく頭。負けじと俺も、
激しく沙也果ちゃんの秘部を齧り立てる。

くすくす……
ふっふっふ……
ずじゅっ……！

……んんん……ふあ、
ずじゅっ……
ずじゅっ……

……
ずじゅっ……
ずじゅっ……



——っ、ぶあ……けほっ
ふふ……わたしを窒息
させる気ですか？w

こんな粘っこい精液。
人の喉奥に躊躇なく
出して……はあっ♪

はーっ、はーっ……俺も、
沙也果ちゃんの尻に潰されて
死ぬかと思ったよ……

あは、ごめんなさい♪
でも良彦さん的には本望
なんじゃないですか？w

クッ……



小悪魔っぽく笑いながら、沙也果ちゃんは指でつつんと俺のチンポを弄る。精液で塗れた肉棒は、もちろんまだ硬さを保ったままだ。

それよりも……当然、まだ出来ますよね？

エッチ、しましよっか。わたしが良彦さんの上に乗って動いてあげます……♪

んっ……
ふふ、ほんとすごいですね。
ずっとガチガチのまま……♪

沙也果ちゃんは服を脱ぐと……
仰向けになった俺の上に跨がってきた。

しつとりと愛液で濡れた割れ目がチンポに乗りかかると、
おぼろげにヌルヌルの感触が堪らなく気持ち良し……。

くっ……
くっ……

……
……
……



……ね、良彦さん。
ママとわたし、どっちが
好きですか？

ええっ？
ど、どうしたんだ
突然……

ニヤ
……

そんなの決められないよ。
どちらか俺にとって大切な
人だし……

え、そこで濁します？
素直じゃないなあ良彦さんはw



おちんちんはこんなに
正直なのに——んんっ

はあ、はあっ……こんなだ、
硬くしといて……はあっ
説得力、ないですよ……っ

うあっ!?!
さ、沙也果ちゃん
の中、熱いっ……!!



ふーっ、ふーっ……ふふっ、
わたしも嫌いじゃないですよ、
良彦さんとのエッチっ……♪

あっ、それ……!

はあ……

ズ
ズ
ズ

……

……

……

……

IP
/ / IP
/ /

根元までチンポを啜るごんたまま——ぐりぐりと、
妖艶に腰をグラグラさせる沙也果ちゃん。
膣肉では細かな膣肉の凹凸がこすれ、思わず声が
漏れ出るほどの快感を与えている。

はあ、んっ♪もし、
もしですよ——このまま、
ずるずるとわたしとの
関係が続いて……♪

その状態で、っ、
ママとも付き合えちゃったら
どうしますか……あんっ♪

3P、とかシちゃいます？w
親子丼、ってヤツ……♪

っ、そんな、
夢みたいな……！

あーっ
あーっ

あーっ
あーっ

あーっ
あーっ

あーっ
あーっ

あーっ
あーっ



——っ、あぁっ♪
ほんと、おちんちんは
素直……♪

奥で硬くなりましたよ♪
シたいんだ、ママとわたしと、
三人でっ……はぁっ♪

はぁっ、あっ♪
沙也果ちゃん、腰使い
激しっ……!!

くすっ

はぁっ

カッ
カッ
カッ
カッ

せよっ……

せよっ……

せよっ……

IP
カッ
カッ
カッ
カッ





いっしょで、出るっ！
沙也果ちゃんのおまんこで
イクっ！

んんんっ—はあっ、あああっ♪
出てますっ、一番奥にっ♪

良彦さんの特濃ザーメンっ♪
赤ちゃんルームに、届いてるっ
……ふぁあっ、ああああっ♪

んうっ……はあっ♪
うっわあ、ソットベト……っ♪

わたしのおまんこに
収まりきらないくらい。
出し過ぎですよ全く……っ♪

いっしょめん……
風呂場貸すからさ。
許してよ

くす……はい、許します♪
……ありがとうございます、
良彦さん



ちゃんと
わかった気がします。
自分の気持ち

わたしがこの先、
どうしたいのかが

……沙也果ちゃん。
そっか……なら良かったよ



毒気のない一年相応の、あどけなな笑顔。

ああ、そろそろは沙世果ちゃんもまだ子供なんだなあ……
この時の俺は、そんなことを呑気な考えでした。





それじゃあ、
わたし帰りますね。
……バイバイ♪

その後、シャワーを浴びた沙也果ちゃんを玄関先で見送って。

……それから、沙也果ちゃんと会うことも、
そして、連絡が来ることもなかった――！



道脇の街路樹もすっかり枯れてどこか寂しい。
独り身には辛い……寒い寒が多が訪ねてきた。

うう、寒……

数ヶ月後。

営業中

は処



.....
.....

今になって思う。
きつとあれは.....沙也果ちゃんが踏ん切りを
付けるための行為だったんだろ。

は 処

あの日を境に、沙也果ちゃんと会うことはなくなった。



は 処

ねー、マジやばい。
判定EだったW

だから言ったじゃん、
志望校ウチと同じに
なんてW

そういえば、もう
受験シーズンかあ

沙也果ちゃんも確か
受験の年だよな……
はは、俺に構ってる
余裕はないか



なんて、未練がましく彼女のことを考える日々。
改めて俺の中で……沙也果ちゃん存在が
大きかったことを実感する。

……うし、散歩終わり。
気分転換も出来たし、家に
帰って仕事仕事と……

……見てみたいもんだ。
大学生になった沙也果ちゃんも

は
処

営業中



え……さ、沙也果ちゃん!?
ど、どうしたんだい突然……

ふふっ。
良彦さん……久しぶり。
元気してます? W

って、電話?
はいもしもし

は 処

営業中




くす。色々と
一段落したので……
そのご報告に

今から近所の公園、来れます？
少しお話しませんか——？

は
処

営
業
中

A vibrant illustration of a park during autumn. The scene is dominated by trees with rich red and orange foliage. A winding path, colored in shades of orange and red, leads through the park. In the background, there are green trees and a clear blue sky with scattered white clouds. Two tall, black lampposts with white globe lights stand on the path. The overall atmosphere is bright and cheerful.

突然の電話……
なにかを期待して胸を膨らませる――

公園に着くと
息を切らして走る俺を見て
はにかんだように笑う沙也果ちゃんがいた。



ふふ、別に待ってませんよ。
わたしも今来たところですし

はあっ、
はあっ……ご、ごめん！
待たせたかな……？

……不思議だ。
見た目も数ヶ月前から変わってけなう。
だけど、久々に会う沙也果ちゃんは……
どこか大人びた雰囲気かして。



良彦さんこそ。
その頼りない感じ。
お変わりありませんね♪

はは……でも良かったよ。
相変わらず元気そうで

た、頼りないって……
まあ、否定は出来ない
けど……



それで……沙也果ちゃん。
報告って……？

ん。そういえば
良彦さんって知ってましたっけ？
わたしが来年大学生ってコト。

う、うん。
知ってる……

最近会わなかったのも、
受験勉強があるから……
だと思ってたけど


はい
正解です♪

——わたし、春から
都内の大学に行きます

え……と、都内……？

ですから……正真正銘お別れです。
今までお世話になりました






あ。でも良彦さん的には
チャンスなんじゃないですか？w

邪魔者がいなくなつて。
ママとイイ雰囲気にな
れるかも……♪

い……いやいや。
邪魔者って……
うん……そっか……



狼狽ながらもゆっくりと、確実に
沙也果ちゃんの言葉を咀嚼して行く。

都内の大学——そうか、そうだよな。
俺は勝手に、沙也果ちゃんは地元
の大学に通うものだよ。

これからも何だかんだ会えるものだよ、
そう思い込んでいた……けど。



ん？何の話ですか？

あはは……普通に考えて、好きになるわけないもんね

ああいや、最後に会った時……沙也果ちゃん、話してたじゃないか

自分の気持ちを確認するって。俺のことが、本当に好きなのかどうか

……はい。好きですよ、
良彦さんのこと♪

……えっ？
いや、ちよ……
だったら――

好きだからこそ、です。
最初からわかってたんです

仮に、わたしと良彦さんが
付き合ったとして……
幸せな未来が待ってるとは
思えない




ママのこともありますし。
周囲もきっと、良彦さんの
こと噂すると思います

そ、それは
そうだろうけど……

ふふ……
良彦さんは優しいから

そんな悪評すらも
全部自分で受け止めて。
責任を取るって……そう
考えてたんですよね



わたしはまだ子供なので、
好きな人にそんな重責を
負わせたくありませんっ

だから、ここで
わたしの初恋はおしまい。
良彦さんとはここでお別れ。
わかってくれましたか？

沙也果ちゃん……
うん。そっか……

——ああ……どこか既視感があるような気がしてんだ。

相田さん……
君のことが好きなんだ！

俺が学生の頃……卒業式の、あの日。
穂乃果さんに——君のお母さんに気持ちを伝えた時の——。

それじゃ！

ふた、良縁クワン



あれから……
俺と穂乃果さんは別々の道を歩み始めた

……失恋と言えはそりなのかもしれなろ。
だけどそれは同時に、お互い成長の……
新たな門出でもあるんだ。

ぷっ……良彦さん。
もしかして泣いてます？w

な、泣いてなんかないよ。
俺も、自分の気持ちを整理
してただけさ

今、俺のやるべきこととは決まってる。
沙也果ちゃんを……笑顔で送り出してる。
それだけだ。



ふふ、良彦さんを頼るなんて、
ホントのホントに最終手段
ですねw

もし何か困ったことが
あったら、いつでも連絡
してくれていいからね

言ってくれるなあ……
まあ、連絡が来ないことを
祈っているよ

お互い、恋は
ここで終わりですけど。
何も今生の別れって訳じゃ
ないんです

長期休暇の時とか、
こっちに帰ってくると
思いますし

そっか……その時は
穂乃果さんと一緒に、何か
美味しいものでも奢るよ

はい、そのときは
ごちそうになります！

それと、いつか彼氏ができたら
良彦さんにも紹介しますね？

いや、紹介って……
穂乃果さんになら
まだしも

第一、その彼氏に
俺のことは何て紹介
するんだよ

んー、そうですね……
わたしの初めてを奪った人？w

……やめてくれ。
俺の社会的立場が
危うくなるから

くすっ、冗談ですよ。

じゃあわたし……
そろそろ行きますね

わたしが進学したら——
ママのこと、よろしくお願
いしますね〜w

はは……それを
娘の沙也果ちゃんが言うか

——沙也果ちゃん。俺の……初恋の人の、娘。

彼女と過ごしていたあの二年はとっても刺激的で。
今後、忘れられない瞬間も忘れられない……
甘く、苦く、思い出の田舎にいたい。

沙也果ちゃんを背を回さず……
互を逆の方向へ歩かせよう。

肌を刺すようになった冬の空気。この時ばかりは心地よく。
胸中は、この澄み渡った寒空のふりそでを晴れやかだった。



わたしの……初恋の人

……さようなら

-END-